



エリゲロン

講習会だより

Extra number(5) 2013/05/26

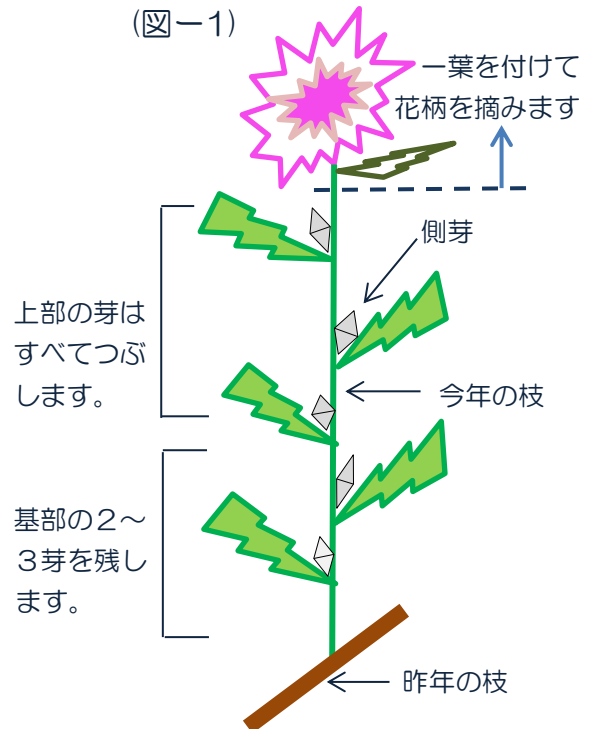
【今回は6月のボタンの手入れについてお知らせします】

- ボタンは今の時期赤紫色の若葉もすっかりきれいな緑色になり、葉の付け根には来年の芽ができています。そして一節付けて切り取った花がらもなくなり次のステップを待っている大切な時期ですので、当面する作業と管理ポイントについて解説いたします。
- ボタンは頂芽優勢の性質がきわめて強く、放任した場合頂芽が見上げるように伸びてしまい、観賞価値がなくなるとともに風で折れてしまうこともありますので、枝の間延びを防ぎ、適度の高さで樹形を保つことを目的として「芽つぶし」という作業を行ないます。
- 作業は今年伸びた枝の、葉の付け根に生じた芽(側芽)を、図-1に示すように基部から2~3芽残して上部の芽を園芸用のピンセットですべてつぶします。
- この時の注意点はすべての葉を傷つけないようにして、9月下旬~10月上旬の「葉刈り・剪定」の時期まで十分光合成ができるようにしてやります。(葉は一枚も取りません。)
- 梅雨に入り多雨が続くような場合には、排水用の溝を作ってあげましょう、またボタンは肥料喰いですので、花後のお礼肥えがまだのときには、油かす・魚粉・米ぬかなどで作った発酵すみの有機配合肥料2握りほどを樹冠下あたりに施します。



百花撰

(図-1)



これからの時期、花芽分化を気にしない庭木においては春からの成長期を終え、6月初旬から7月初旬にかけて剪定の適期になりますので、忌枝を中心に込み入った枝葉を剪定して樹冠のすみずみまで通風・日差しを確保し、病害虫に強い健康な庭木に育てましょう。